

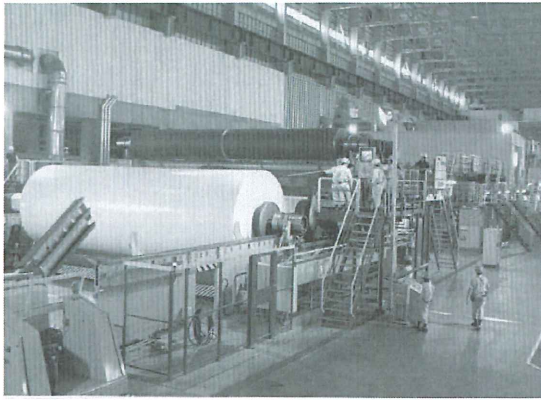
平成29年度 港湾 研究 修

— 新潟港で実施 —

港湾防災防止協会は、第54回全国港湾労働災害防止大会に先立つ10月19日(木)～20日(金)の両日、平成29年度港湾研修を新潟港で実施しました。

本研修は、大会開催地における港湾荷役の現状と労働災害防止活動状況の学習を目的として実施されており、今回は、全国の会員事業場から85名の方が参加され、宿泊ホテル2ヶ所、バス2台、コースは2班に分けての視察等となりました。

新潟港は、江戸時代には、北前船、



北越紀州製紙新潟工場 9号抄紙機 (同社のパンフレットから)

明治維新前、日米修好通商条約によって開港5港の一つとなるなど歴史ある国際貿易港ですが、もともと、日本一の大河、信濃川河口にあることから、上流から流れ込む河底の土砂の堆積等から、大型船舶の入港に支障があったため工業港としての機能を拡充するべく海岸を開削して新潟東港が造られました。

外貿コンテナ航路が開設されて以来コンテナ貨物量が順調に増加し、また、日本海側最大のLNG取扱量を有するエネルギー港湾として発展し、近年は、中国や韓国など北東アジア諸国の経済発展などを背景に、環日本海の国際物流拠点としてますますその存在感を強めています。

一方、開港以来140年以上の歴史を持つ西港は、信濃川の河口に位置し、佐渡や北海道へのカーフェリーや国内外の旅客船が発着する新潟の玄関口として機能し、新潟の中心市街地に隣接しています。

今回の研修では、日本海総支部関係者にご案内いただき、研修第一日目は、木材チップが搬入されるチップヤードなど新潟東港を視察し、さらにチップヤードから搬入された木材チップがパルプを経て紙に生まれ変わるま



信濃川ウオーターシャトルに乗船して海上より新潟西港を視察

での状況を、北越紀州製紙(株)新潟工場で見せていただきました。

同工場は情報用印刷用紙の生産では、日本で一番大きい工場であり、幅10メートルの大型の抄紙機を稼働しているため、巻き込まれ等の災害の防止等、さまざまな安全レベルの高い取組をしており、高度な安全管理活動を窺い知ることができました。

また、同工場は、ほぼ新潟の中心に位置し、周りを住宅街に囲まれていることから、周囲への臭気や騒音の拡散を抑え、環境に最大限の配慮をしています。

研修第二日目は、国際コンベンション施設「朱鷺メッセ」側の船着き場から、信濃川ウオーターシャトルに乗船して海上より新潟西港を視察し、臨港埠頭をまわり、信濃川を遡り、観光拠点となっている「新潟市歴史博物館(みなとびあ)」等を見学し、最後に白山

神社で安全祈願を行い、昼食を終えて解散し、大会会場に向かいました。この研修によって、国際物流港湾として世界に開かれた港湾が、いかに多くの人々の生活や産業を支えているか、その意義とそこで働く人々の安全と健康を確保することが大事か再認識することができました。また、港に運ばれた木材チップが製紙工場に紙に生まれ変わる工場での高度の安全設備、安全管理の過程を見ることができ、さらに参加された多くの港の会員の皆様との有意義な意見交換を進めることにより、安全衛生課題の解決のヒントを得ることもできました。

是非ともこの研修の結果を各自それぞれの港に持ち帰って、安全衛生管理の確立に役立て、更に一層の災害防止の気運の醸成も図っていただきますよう祈念いたします。



「新潟市歴史博物館(みなとびあ)」等を見学し、記念撮影